

科学者委員会広報分科会（第22期第20回）議事要旨

第1. 日時 平成25年7月19日（金）13:58～15:35

第2. 場所 日本学術会議 5-A（1）会議室 5階

第3. 出席者 辻村みよ子委員長、北里洋副委員長、小森田秋夫幹事、
那須民江幹事（Skype参加）、吉川泰弘委員、萩原一郎委員
日本学術会議事務局企画課：渡邊、高橋、伊藤、島田
日本学術協力財団：南、末次

第4. 配布資料

- 資料1 第20回科学者委員会広報分科会出席者一覧
- 資料2-1 第16回科学者委員会広報分科会議事要旨
- 資料2-2 第17回～第19回科学者委員会広報分科会議事要旨案
- 資料3 日本学術会議リーフレット
- 資料4 『学術の動向』平成25年7月号以降の掲載予定記事一覧
- 資料5 現在寄せられている『学術の動向』特集記事等の企画案等
- 資料5-1～ 各企画案
- 資料6 『学術の動向』の「日本学術会議の動き」追加案
- 参考1 日本学術会議関連イベントスケジュール

第5. 議事

1. 第17回～第19回科学者委員会広報分科会（メール審議）議事要旨案について
 - ・原案のとおり了承された。
2. 日本学術会議の広報活動について
 - ・4月の総会後に、リーフレットが完成したため、資料3として紹介された。
 - ・現在、パンフレットの改訂版の作業を進めていることが報告された。
3. 『学術の動向』について
 - (1) 特集
 - ・8月号以降来年6月号までの特集テーマについて確認と審議を行い、次のようなテーマで掲載することとした。なお、1月号以降は候補とし、企画書の提出等を待って10月の広報分科会で見直しを含めて審議することとした。
 - ・8月号
 - 特集1: 原発事故調査で明らかになったことー学術の役割と課題ー
 - 特集2: JAPAN PRIZE
 - ・9月号
 - 特集1: データと発見ーData Intensive Scientific Discovery
 - 特集2: 日本の復興・再生に向けた産学官連携の新しいありかた

- ・10月号（特集3を設ける）
 特集1：災害復興とジェンダー
 特集2：震災復興の倫理—新自由主義と日本社会
 特集3：災害に対するレジリエンス構築：アジア—世界のネットワーク形成を目指して
- ・11月号
 特集1：東日本大震災とマイノリティー—高齢者・障害者・外国人などに関して問わなければならないこと—
 特集2：今、宇宙がおもしろい
- ・12月号
 特集1：災害と環境教育—内発的なESDからの復興の道筋の展望—
 特集2：放射線健康リスク管理福島国際学術会議
 (26年1月号以降は、企画案の提出等を条件として、候補を選定した。)

(2) 表紙

- ・8月号については、例年通り JAPAN PRIZE 受賞特集を掲載し、受賞者の顔写真と賞のロゴを使用することで了承された。
- ・9月号については、特集1担当の先生に依頼済みであるとの報告が出された。
- ・10月号についても同様に依頼済みであるが、特集1から特集3までの全てに関係するものが望ましいとの意見が出された。
- ・表紙案については、特集1の先生にお願いし、風景写真やデータやむを得ない場合、人物写真の使用も可とするが、歴史上の人物を優先することを確認した。
- ・9月号以降については、なるべく早く案を作成することとした。

(3) 編集後記担当

- ・平成25年8月号～平成26年5月号までの担当委員を確認ないし内定した。
 (必要に応じ10月の広報分科会にて見直すことも確認した)

(4) その他

- ・政策統括官（科技担当）より内閣府総合科学技術会議がまとめた「科学技術イノベーション総合戦略」について、コラム等の掲載希望があり、了承された。
- ・会長からの要望で、『学術の動向』の“日本学術会議の動き”に「会長からのメッセージ」というコーナーを毎号設けることについて、事務局より報告した。原稿自体は約1,200字～1,600字を予定している。
- ・「科学と社会」欄への寄稿に関する問い合わせについては、同一著者の原稿を重複して掲載することを避けるため、別コーナーへの寄稿を検討してもらうこととした。
- ・昨年行っていた、第22期で任期終了となる会員のうち、一度も『学術の動向』に執筆をしたことのない会員に絞って寄稿を依頼することとし、事務局で該当者リストを更新した上で対応することとした。

第6. その他

- ・次回の広報分科会は、10月2日（水）12時から開催することを確認した。以上